

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー (オレンジユニット)		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3390200420&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成22年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人誠和会が運営するグループホームコージーは医療と介護のトータルサポートを目指しています。医療面では協力病院として倉敷記念病院、訪問専門クリニックせいわと連携し、介護面では居宅介護サービス、老健施設、有料老人ホームとも協力している。また、防災体制や地域交流の面では法人として協体制ができています。コージー「COZY」の名前通り「居心地のよい、くつろげる」という理念にもとづいたケアに取り組んでいる。入居者の自主性を尊重した「見守るケア」、家族参加の行事カンファレンスを通しての「家族と一緒にするケア」という2つの目標を掲げ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人であるが、42年間の歴史の中で住民の健全な生活を保障する為には「医療と介護の一体化が必要」という考えで老健施設や居宅支援サービス事業を展開してきた。そして、最近の高齢化社会のニーズに対応する為、住まいを提供出来る有料老人ホームを造り、昨年10月に認知症対応のグループホーム(2ユニット)を開設して、地域密着型サービスに乗り出した。在宅では生活できない人が増加する現状からすると、高齢化や、認知症になっても、「在宅一週所一泊まり一泊まり一泊まり」といった一連のサービスを選択しながら、それぞれに満足出来る生活を支援していくことが必要な介護サービスを充実させている。このグループホームの特長は、この法人で認知症ケアと生活をどのように支援していけば良いか、認知症になっても安心して暮らせる本人と家族をコージーの名称通りに医療と介護一体で支援していく新しい体制づくりの第一歩の始まりだと感じた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コージーの名前の由来どおり居心地の良いホームを目指し、法人の理念を基本に、ホームの目標をかかげ添ったケアができるよう、教育の中に入れ確認している。	法人の理念・ホームの3つの目標について入職時の研修で教育している。理念実現に向けた方策として、「家族と一緒に」と「見守るケア」を職員間で心がけ、実施に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の行事参加や日常的に近所の散歩、スーパーへの買い物に出かけている。また、託児所の園児と交流をもっている。	法人全体の祭りやボランティアの慰問に参加するほか、ホーム独自の交流もある。散歩や買物での出合いや、ホームの庭越しに近隣の人と話しをすることもある。託児所の園児が月1回程度遊びに来て楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の看護学生の実習受け入れをしている。同法人が受け入れた実習生に、見学・説明をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題はホームの取り組み内容を中心とし、地域の代表、家族の方から出た意見、要望、質問等を受け、チーム会等で報告し、検討している。	民生委員・地域代表、法人各施設・家族・介護保険課の参加で、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの状況説明と意見交換を行い記録している。火災訓練への意見を次期訓練に取り入れる予定である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に報告、指導相談させてもらっている。	市との連絡は法人がすることが多いが、報告や相談など必要に応じて連絡をとり、グループホーム連絡協議会にも参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束ゼロを目指し、ホームでも勉強会を実施し理解を深めている。利用者の行動を抑制しないように見守りケアに取り組んでいる。	法人で作ったマニュアルに沿ってホームでの勉強会などを行い、身体拘束のないケアに努めている。ウッドデッキや庭に自由に入出りでき、利用者の行動をできるだけ抑制しないよう配慮し、言葉にも気をつけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で委員会を作り、勉強会を開催し、理解を深め周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、該当者がいない。職員の理解は今後の課題である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約書、重要事項説明書で説明を行なっている。その後は随時、説明をし、理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来ホーム時、近況の説明等行ない、意見・助言を求める機会を持つようにしている。毎月生活の様子を家族へ送付したり月ごとに家族参加の行事を計画している。	ホームや利用者の状況を毎月家族にたよりで知らせ、面会や行事の時家族から意見を聞いている。家族参加の行事を毎月行い、その時家族会を開いて意見や要望を聞いている。協力的な家族が多い。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員の意見を聞き検討している。日誌や連絡ノートの活用、申し送り時に伝達・情報共有している。	ユニットごとのミーティングを毎月1回勤務中の職員で開催し、活動方針に対する意見を聞いている。両ユニット合同の行事は委員会を開いて決めている。業務日誌や連絡ノートで職員間の連携を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のシステムとして年2回個人面談を行ない、人事考課・目標の確認をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外、機会をつくり研修に参加するようにしている。また、ホームで委員会を作り委員がスタッフへの教育を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴に基づき、家族・本人から話を聞き、疑問、不安があればゆっくり時間をかけ、本人の意向を聞き、不安のない生活が送れるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より家族の要望、思いを聞き、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に事前に会いに行き、情報収集をする。他機関からも情報収集し、状況を確認し、職員間で話し合い、必要に応じ検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、畑仕事など入居者の意見を聞きながら、互いに役割を持ち、寄り添うケアを心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告している。(広報誌、面会時等) 月に1回家族と行事を行ない、家族と一緒にケアする事を目標として取り組んでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事で家族と共に過ごしていた場所へ行く等、外出の機会を設けている。面会時には、居室やリビングでゆっくりお茶を飲みながら話ができるよう雰囲気づくりに努めている。	個々の馴染みの関係継続については家族の協力をお願いしている。ドライブで昔の職場前を通って喜ばれたり、観光ガイドをしていた街にホームから遊びに行き、昔馴染みの人と出会い、とても喜ばれたこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファやリビングのテーブルを使い、小集団で過ごせる場所を設けている。職員が間に入り、声かけすることで意思疎通が困難な入居者、難聴の入居者が関わり合えるよう配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、情報収集提供を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や家族との会話の中で本人が興味ある事、楽しみにしている事を把握し、行事や日々のケアの中に取り入れている。個々の訴えや生活状況を考慮し、日々のケアに活かしている。	入居時のアセスメントでは、家族から利用者本人の特徴などを把握している。日常会話やテレビ番組の話題などから、本人のしたいこと・食べたい物など聞き出している。	経歴や経験などを十分把握した上で、利用者の誇りを讃えるような話題でゆっくり話を聞き、具体的な暮らし方や希望を聞き出して欲しい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の方にフェイスシートを記入してもらい情報収集をしている。また、家族や本人と話し、話の中より情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況をカルテに記載し、総合的に把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに家族も参加してもらい、本人・家族の希望の取り入れ、介護士、看護師と話し合いをし作成している。また、参加できない家族には来ホーム時、希望を聞いている。	カンファレンスに担当者・家族も参加し、看護師とも話し合っって個別のリハビリ体操を組み込んだ支援計画を作成し、家族の承認を得ている。日々モニタリングを行い、1～6ヶ月毎に見直しをしている。	身体的なりハビリのほかに、精神面の機能低下を防ぐために、取り組みやすい具体的な支援を考え、達成する毎に出来る人は自己管理も含めてステップアップさせ、安定した精神状態を維持してもらいたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やモニタリングシートに詳細を記入し申し送り、カンファレンスにて検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で、話し合いを持ち対応している。場合によっては、家族等にも協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩やスーパーへの買い物へ出かけている。 託児所の園児との交流や同法人の行事参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医、週1回の訪問診察など連携を密にしている。医師や看護師と情報共有し連携を図っている。	法人の病院が協力病院となっており、医師・看護師との連携ができており、緊急時や入院時などにも安心である。週1回の訪問診察を行っている。それ以外のかかりつけ医への受診は家族にお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での異変など、随時、看護師に報告・相談し、医師・看護師の指示のもと対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供や治療中の情報交換を行なっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に、常時、医療的管理が必要となった場合には、状態に適したサービスが受けられるように援助していく事を家族に説明し、同意を得ている。	ホームでは継続的な医療行為はしないので、重度化した場合は医師と相談し、他の適した施設へ移動してもらい、看取りは現在では考えていない。入居時に家族に説明し、認識してもらっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法、対応のマニュアル作成、マニュアルをもとに勉強会を開催し周知している。 また、転倒事故発生後、ミーティングを開催し、対策や対応方法の検討をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練実施・停電時等のマニュアルがあり周知徹底している。また、災害時には同法人内より職員が駆けつけ、協力体制がとれている。	スプリンクラーなど消化設備・災害対策マニュアル・法人内での協力体制など災害時の対策には万全を期し、年2回の火災訓練を行い、利用者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、声かけ・ケアに配慮し実践している。居室の活用や入浴では専門の職員が関わるようにしている。	プライバシー保持のために身体ケアには個室を使ったり、入浴の介助はいつも同じ人が当たるなどの配慮をしている。個人情報などは他の人に聞こえないよう気を配っている。	作品を展示したり、役割に感謝状を渡すなどして、利用者のプライドを高め、自信を持たせてあげることも良いと思う。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認し支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間など本人の生活ペースに合わせ、希望に沿った対応をしている。入浴は毎日入れる体制にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着てもらえるよう支援を行なっている。また、居室に鏡を持ってきている入居者もあり、化粧が出来るようにしている。また、美容師が訪問しカットなど実施できる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け片付けなど協力し行なっている。毎月行事食があり、旬の食材を使用している。畑で採れた野菜を使って一品料理を作っている。また、毎月の行事の中で好きなものが家族と作れるように計画をしている。	調理は業者が行い、職員と利用者で料理を盛り付ける。おやつ作りや畑の作物で一品を作ることはしている。食卓の準備や後片付けを利用者も手伝っている。職員1人が検食し、他の職員は利用者につき添う。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を把握し、本人の好みを取り入れながら、十分な栄養確保ができるよう取り組んでいる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施している。また、状況に応じて一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、排泄用具、オシメの種類を使い分けている。必要な方には声かけ・誘導を行なっている。	排泄はまだ自立している人が多く、自分の意思でトイレを使用している。その他トイレに定時誘導する人もある。夜間だけパッドやポータブルトイレを利用したり、夜間だけ声かけしたりする人もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量の管理、散歩、体操など取り入れられている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望と病状に合わせた、入浴の提供をしている。入浴を専門にしている職員がおり、なじみの関係で入浴できている。	毎日希望の時間に入浴できる。午後2時頃から声かけし、希望者が順に入浴する。体調が良ければ毎日入浴する人が多い。入浴介助を専門に当たる職員がいるので、利用者は落ち着いて入浴する。夜間の入浴もできる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーでくつろいだり、趣味活動のスペースで過ごせるよう支援している。天気の良い日は自由にウッドデッキへ出入りができ、椅子を設置しゆっくり過ごさせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能、副作用を常に確認できるようにしている。 配薬、服薬確認を行なっている。また、法人内で行なわれる薬の勉強会に参加している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑で作る野菜の育て方など入居者に意見を聞き、一緒に草取り、水やり、収穫をしている。家事全般の役割を入居者の間で話し合いを持ち日課となっている。庭や散歩道いつでも散歩できるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や近所への散歩を日常的に行なっている。家族とも協力し外出の機会をもうけている。また、毎月の行事として家族と一緒に花見やドライブへ出かけ社会と関わりが持てるようにしている。	ホーム周りに散歩道を作っており、日に何度も散歩する人がいる。毎月の行事として家族と花見や公園に出かけたり、数人ずつ観光地や馴染みの場所に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じお金の管理をしている。買い物は、希望に応じ行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話している。年賀状・暑中見舞いなど出せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や花を置き季節を感じることができるようになっている。また、メダカを飼っておりメダカの世話が日課となっている入居者がいる。空調管理をし、過ごしやすいようにしている。	防音・空調など配慮した建物に、広いウッドデッキや畑、周辺に散歩道などがあり、落ち着いた楽しめる環境を作っている。広いリビングにはテレビの前に大きなソファがあり、大勢で座れる。出窓でメダカの餌やりを楽しむ人もある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりイスに座り、本や新聞が読めるスペース、椅子・テーブルの配置を工夫し、趣味活動ができる空間をつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具など本人に必要な物を家族に用意してもらっている。ラジオやDVDを楽しんでいる入居者もいる。	ベッドは備え付けで、イスや衣装ケース・小ダンスなどを置いている。家族の写真や自分の作品を置いている人もあるが、飾り気のない人もある。ラジオを楽しむ人もある。	個室での生活をもう少し充実させることによって、精神の安定や能力維持を図って欲しい。過去の写真や作品・趣味の物などを置き、個室だからこそできることや語らいをしてほしい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリー。キッチン、オール電化で活動スペースを十分にとっている。		